

## ● 梶山内科クリニック

京都市右京区西院追分町 25-1-136  
ダイヤモンドシティ・ハナ 3F  
メディカルプラザ京都



梶山内科クリニック  
梶山 静夫 先生

## 略歴

S 52年3月 京都府立医科大学 卒業  
S 52年4月 京都府立医科大学第一内科入局  
S 54年4月 松下記念病院内科  
S 56年4月 京都府立医科大学第一内科  
S 62年4月 京都府立医科大学第一内科助手  
医学博士  
S 63年4月 明治鍼灸大学内科学教室教授  
H 5年4月 京都市立病院代謝内科部長  
H 16年3月 梶山内科クリニック院長

## 専門

内科、糖尿病、生活習慣病

## 所属学会および役職

京都府立医科大学臨床教授  
日本糖尿病学会学術評議員  
日本病態栄養学会評議員  
日本内科学会近畿支部評議員  
京都糖尿病医会理事  
京都府糖尿病協会顧問  
京都府社会保険診療報酬支払基金審査委員  
認定内科医  
糖尿病専門医、指導医  
内分泌代謝専門医

# 梶山内科クリニック

京都市の中心に糖尿病を専門的に診る梶山内科クリニックがある。スタッフは糖尿病専門医である梶山院長と非常勤の循環器専門医、看護師7名、管理栄養士2名、検査技師1名、クラーク4名、事務2名の18名。隣接する眼科、歯科、栄養・運動指導スタジオと提携し、大病院並みの診療を行えるクリニックとして、いま注目を集めている。新しい流れを作る梶山内科クリニックを訪れ、その取り組みについてうかがった。

## 眼科や歯科と連携して メディカルモールを展開する 糖尿病専門センター

### 糖尿病治療をとおしてトータルに 健康管理

京都市右京区西院。五条通りを歩いていくと、ひときわ大きなショッピングセンターが見えてくる。『ダイヤモンドシティ・ハナ』である。

今回ご紹介する『梶山内科クリニック』は、その『ダイヤモンドシティ・ハナ』3階のメディカルプラザ京都の中にある。

『梶山内科クリニック』の開業は2004年3月。この春に1年目を迎えたばかりだ。院長である梶山先生は、糖尿病の専門医として長年にわたり京都市立病院に勤務。当時から構想を練っていた糖尿病専門センターの実現を果たした。

「糖尿病の治療は医師だけではできません。栄養指導や運動指導、また関連する合併症対策として眼科や歯科の協力も欠かせません」というように、眼科、歯科、栄養指導や運動指導をする施設が併設されている。

梶山内科クリニックの特徴はいくつかある。

- 1) 患者さんを待たせない治療の実践
- 2) 糖尿病を軸に心血管系など

を含めた全身の健康管理

- 3) 独特な運動療法である気功ウォームの採用
- 4) 糖尿病食の宅配サービスの推奨
- 5) 診診連携による目や歯などのケアを推進

などである。

ここで梶山内科クリニックにおける診療の流れをみてみよう。まず受付で手続きを済ませると、専任の臨床検査技師による採血が行われる。

「血液検査の結果は10分から15分程度で出ますから、わたしが患者さんを診察する時には、すでにご本人のデータが揃っています。また電子カルテを導入していますので、患者さんがいま何をしているかも一目瞭然で分かります」

待ち時間や連絡ミスを最小限に抑えることができるため、患者さんが受付を通ってからクリニックを出るまでの平均時間は30分以内と短い。

「電子カルテは提携している眼科とLANで結ばれており、リアルタイムで情報のやり取りが行えます。したがって、内科の私は眼



メディカルプラザ京都があるダイアモンドシティ・ハナ外観

梶山内科クリニック

梶山内科クリニックのスタッフ一同

底検査の結果を知ることができますし、眼科の先生は血液検査の結果を知ることができます。」

電子カルテへの入力は専任のクラークが当たり、医師が診察をしながら行うよりも、早く正確に大量の情報を入力できる。そのため梶山内科クリニックの電子カルテはとても充実している。

### 早期スクリーニングを徹底し糖尿病から血管を守る

糖尿病治療の目的は、言うまでもなく動脈硬化から脳や心臓を守ることにある。「心臓にしても無症候性で、狭心症の症状がなくいきなり心筋梗塞ということもあります。それだけに早期スクリーニングが重要であり、症状が出てからでは遅いのです。」

そのために梶山内科クリニックでは、頸動脈エコーやホルター心電図の導入。またエルゴメーターを設置するなど怠りはない。また検査で得られたデータは、アークリイのケアラボでマネージメントされている。このシステムは、全自动で検査結果を同時に電子カルテに自動転送することができる。手間がかからず人為的なミスもない。もちろんデータを呼び出しモニター上で見たり、プリントアウトし

て患者さんに渡すこともできる。

「経時に血糖値や体重の変化などが見られるので、患者さんのモチベーションが向上します。ご自分の体についても興味がわいてくるのでしょうか。治療にも積極的に参加するようになります。」

一方、患者さんの体全体を診るという意味で、運動や栄養指導にも積極的に取り組んでおり、そのひとつが気功を応用したウォーク。

「高齢者にとって激しいエキササイズは無理があります。骨や関節などを痛めることもあるからです。ところが気功ウォークは、ゆったりとした動きなので体に無理な負担がかかりません。一見運動量が少ないように見えますが、実は結構な運動量ですし血糖値を下げるために適した運動といえます」

糖尿病を管理するためには徹底したケアが必要という梶山院長は、栄養指導の面でもユニークな取り組みを行っている。

「食の制限は行き過ぎると治療からの脱落につながります。そこで糖尿病でも美味しい食事を実感していただくために、ある一定期間糖尿病食の宅配をお勧めしています」

隣接する『ハートアンドハート』では、栄養指導だけではなく、患者さんひとり一人に合わせたオーダ

ーメイドの糖尿病食を作っている。

「いちど覚えればあとはご自分で作ればいいのです。まだコストが高いため、毎食というわけにはいかないのですが、ゆくゆくはコンビニエンスストアの弁当程度に価格を抑えたいと思っています。」

### 24時間患者さんからの問い合わせに対応

梶山院長はポケットからご自分の携帯電話を出した。そして「この携帯電話は24時間、患者さんからの問い合わせに応えるためのツールとして使っています。低血糖についての問い合わせや、薬の服薬時間を間違えたなどの問い合わせが多いのですが、脳梗塞などの緊急時には、わたしが救急病院の手配をしたり、搬送される患者さんの情報を伝えるなどの段取りをします。糖尿病を管理するには、患者さんに注射器と薬を渡すだけではなく、いかに血糖値をコントロールするか。万一のことがないように24時間体制で万全を期する…糖尿病のインスリン治療というのは、そこまでフォローする必要があると考えています。」

梶山内科クリニックには、いま800人以上の糖尿病の患者さんが登録されている。それは、大病院並みの治療を受けることができるクリニックに対する患者さんたちの正直な答えといつてもよいだろう。そして梶山先生の糖尿病治療にかける気持ちを、もっとも理解しているのは患者さんであるとの確かな証だ。



受付



頸動脈エコー



エルゴメーター